



# 信仰の嗣業の継承と伝達

メソジスト信仰の継承と伝達

フリー・メソジスト  
小金井教会牧師

芳賀 正

日本聖化交友会が生れ、毎年の聖会も祝福されつつ歩んでいることは感謝です。

私達はウエスレーによって教えられた聖書の聖潔の信仰に立つ者達の交わりです。主がこのような信仰に導いて下さったことを心から感謝せざるを得ません。

私達の殆んど者は、ルツではないが「はからずもエリメレクの一部に属するボアズの畑」に導かれたように、「ウエスレーン・アルミニアン」の信仰を標榜する教会」に、はからずも導かれた者達ではないでしょうか。そこに主の先行的恩寵があったのです。

しかし、教会の主張する信仰は、必ずしもその群れの一人一人の信仰とは言い切れません。サマリヤの人

は、イエス様にお会いした時、喜んでイエス様を町の人々にお伝えしました。人々は主から直接に聞き、そしてこの方こそ世の救い主だと信じました。(ヨハネ四・27-42) 私達もきよめの恵みを主から直接に与えられることが大切なのです。

パウロがペレヤで伝道した時、この町の人々は、「非常に熱心にみことばを聞き、はたしてそのとおりかどうかと毎日聖書を調べたと記されています。(使徒・10、11) 私達にとっても、きよめの信仰が他者から教えられた恵み以上に、聖書を学ぶことから与えられた確信となつて来る必要があります。どうでしょうか。

ジョン・ウエスレーは、メソジスト教徒とは「きよい民を起すために存在している」と主張しました。私

達は聖書のホーリネスの宣証のために神に起された民なのです。残念ながらメソジストという名は、必ずしもこのことの宣証の群れを意味しなくなつてしまいました。私達はこの流れをくむ者として警戒しなくてはなりません。

現代は聖霊の働きが期待されています。また教会はその事を痛感しています。しかしそれが聖書的な道、聖書全体の教える聖化から離れたところで強調されて行くのではなく、あくまで聖書全体から教えられ、捉えられて行くことが必要でしょう。私達はこの聖書のきよめのために起された民であることを自覚し、この信仰をしっかりと継承し、伝達して行くために励んで行きましょう。

# 全き聖め



工藤弘雄

「どうか、平和の神ご自身が、あなたがたを全きよめて下さるよう。また、あなたがたの霊と心とからだを完全に守って、わたしたちの主イエス・キリストの来臨のときに、實められるところのない者にして下さるよう。あなたがたを召されたかたは真実であられるから、このことをして下さるであらう。」

(テサロニケ人への第一の手紙 五の二三・二四)

キリスト者の聖い生活と栄光の主の来臨とを結びつけた偉大な真理がさん然と輝く聖句がここにあります。聖めは主の再臨に備える必須条件であり、再臨は聖めの輝かしい終結と云えるでしょう。

ご自身が人を聖めるのであって、人が自分を聖めるのではないのです。聖めの創始者は神ご自身であられるのですから、人は聖め給う神のみ手に陥ればよいのです。「神のみこころは、あなたがたが滑くなることである」(I テサロニケ四・三)、「神がわたしたちを召されたのは、汚れたことをするためにではなく、滑くなるためである」(同四・七)とありますように、聖めは神のみこころであり、そのみこころには驚くべき力が伴うのです。神と私たちとの間に平和をもたらし、また神ご自身の平和をもたらし、またこの全き聖めを大胆に心から祈り求めようではありませんか。

内容をもちつことばであると云われていきます。まず聖めは分離を意味します。聖めとは神の聖さと相入れないあらゆるものからの分離を意味します。過去のあらゆる罪と汚れ、また内心の古き人、生れながらの肉性などからの分離を意味します。血潮による救いと聖め、十字架による古き自我性の磔殺というメッセージはこれを意味します。

次に聖めは献身を意味します。すなわち、きよめとは自分自身、が、全く「神のものになる」とです。一口に神のものになると言いますが、これは恵みなくしては言えないことです。わが身もたまたまことごとく主にささげ切った魂はなんとすばらしいことでしょうか。明けわたす、ささげる、委ねると云ったメッセージはこの意味での献身を意味するのです。

最後に、聖めはからだの領域に及びます。からだとは五感を働かせ行動するところ。神のホーリネスはわたしたちの目、耳、鼻、口、手、足、内臓にまで及ぶというのです。

(関西聖書神学校校長代行)





# 神との出会い

## 藤波勝正



エマオの途上の弟子たちは、主にお会いしたのに、その時は理解できないで、後になって「あのとき、心は燃えただけではないか」と、その事実を理解し、感謝と喜びに満たされた。私の救いと聖潔の経験も同じようなものであった。

私は、両親が割合に熱心なキリスト者であったので、幼い頃から教会に行き、御言葉の中で育っていた。しかし、弾圧のために教会が解散し、牧師が逮捕され、また、戦争が激しくなったので神奈川県田舎に引越したが、そこには教会がなかったため、教会生活ができなくなってしまった。戦争が終わってからは、何人かの牧師、キリスト者が訪ねて下さった。

あるときから、私は罪の道を歩むようになってしまった。が、何年かぶりに出た日曜学校の礼拝で罪の赦しを経験した。小学校五年生のときである。

その時は「救い」ということを知らなかった。救われたという意識はなかった。が、自分の罪が赦され、変えられ、新しい生活が始まったということにははつきりしていた。

しかし、中学生になったころから教会から足が遠ざかり、大

学時代には学生運動の一翼を担うようになり、神から離れてしまった。

そのころ、私たちの家族にとって大事な方の死に直面した。人の死の前には左翼思想はなにも役に立たず、神に祈る心が与えられた。折ったときに「あなたは今何処に居るのか」との御声を聞き、神に帰る決意をし、再び全く変えられた日々を送る力を与えられたのである。

後になって牧師と話をしている時に自分が小学校五年生の時に救われていたという事実を確認することができ、神の業の素晴らしさを感じた。そして、救いの経験後九年目にして受洗の恵みに浴することができた。

再び教会生活が始まり、約一年間は夢中になって教会に通い、神の恵みを頂いて、感謝を毎日を送っていた。しかし、あるときから「自分はこのままで良いのだろうか」、「教会に行ってもいるが少しもキリスト者らしくない」、「教会に行けば何時も罪と責められる」、「集会に出ても恵まれない」と様々なことを考え、理由をつけては教会に行くのを止めようかとも思うようになった。が、教会から離れることは神から離れることであり、

救いから落ちることであること、自分の経験で分かっていたので、教会から離れる決意をすることはできなかった。

しかし現実には、二重人格の故に苦しみ、もがき、悩み抜いていた。この悩みから自分を救い出してくれるものがないかと真剣に求めた。授業も身に入らない程、悩み苦しみ、半分ノイローゼのような毎日であった。いくら悩み、苦しんでも解決がないので、自殺したい気持ちになったこともあったが、これは更に神の前に罪であることを知っていたので、そのような決意をするまでには行かなかった。

多分礼拝やその他の集会でも聖潔の恵みについての説教があったと思うが、私の記憶にはなかった。ただ神を求め、救いを求め、自分を変えられることを求めている。それがどのくらいの期間であったのかははつきりと覚えて居ないが、長い日時ではなかったように思う。

当時、私は神奈川県湯ヶ原から約二時間かけて大学と教会に通っていたので、列車の中を神との交わりの場として用いていた。ある日、聖書を読み始めた。神の愛を知り、神の赦しの素晴

らしさを知り、自分の弱さを覚えながら読んだ。今でもよく記憶しているが、七章になると自分の心がそのまま出てびっくりし、八章になったときに主の十字架の勝利の意味を、その愛のなかに生かされている自分を知り、主の十字架を信じれば良いのだということを知った。神は不思議に私の心に御言葉を通して、囁いてくださった。「あなたはその弱さのために主が十字架に掛かってくださったのである」と。列車の中だったが、心から神に悔い改め、信じ、感謝し、心のなかで賛美した。

この経験が聖潔であるということを理解するためには、また何年もかかった。聖潔を求めて祈り、学んでいるときに、あの経験が私を変え、献身にまで導き、今日の私があるのだということを知った。

丁度エマオ途上の弟子達が後になって主にお会いしたことを知ったように、神の導きの不思議さ、信仰の力の素晴らしさ、何よりも聖書の御言葉の正しさを自分の経験として知ることができた。主は今までも御言葉を通して私たちに聖潔の恵みへ導いてくださる。

(キリスト兄弟団 小田原教会牧師)

# 第5回 聖化大会 レポート

## 本間 義信

JHA主催の第五回聖化大会は、十月二日(日)、二三日(火)の両日、淀橋教会にて、主講師に世界福音同盟議長、セオドー・ウイリアムズ博士を迎えて開催されました。

二回のセミナー、二回の聖会を主軸に、日本人講師による講演、婦人信徒大会、神学校教師の集い、神学生交歓会などが行われました。

JHAの働きは大会開催を五回重ねただけでなく、北海道から九州まで地区大会開催も拡大しつつあります。

T・ウイリアムズ博士は、「きよめと宣教」のテーマの下に、「すべての国民の主」及「収穫の主」と題して二回のセミナーを導かれました。二回の聖会もスタンダードで実践的なきよめのメッセージでした。この内容はいづれ本誌で紹介されることでしょう。

ここでは、神学校教師の集いにおける同師の「インドにおける神学教育」と言う講演から御紹介いたします。超教派的に学生を受け入れ、アルミ

ニアン・ウエスレアンの立場に立って教育している南インド聖書大学で長年奉仕して来た。きよめの実践の問題で失敗し、つまづいている学生たちを前にして、第一に、教師は、弟子たちと一体になって神学生活をし、生活を公開していなければならない。

第二に、転機の後、生活はどうするか。転機後の歩みを教えることが大切である。

第三に、文化的な事柄と霊的な事柄を識別することである。文化的なものを絶対化してはいけないのである(例えば、インドではカーストも文化的なものであって絶対化されてはならないものである)。

日本人講師による講演も仲々充実していました。第一日目は、インマヌエル教団の学代忠一師による「實際生活からみたホーリネス」と言う講演でした。

第二日目は、ホーリネス教団の小林和夫師による「聖化の聖書神学的展望」と言う講演でした。各々が長年の研究のエッセンスを手際よくまとめて下さったと言うのが印象です。

出席状況について。第一日目、セミナー(二六)二、講演(三三四)、聖会(三五七)、第二日目、セミナー(二二〇)、婦人信徒大会(二三七)、講演(三〇〇)、神学校交歓会(二七〇)、神学教師の集い(四八)、聖会(三九九)となっています。あと少して四〇〇名を越える聖

会が開催出来る所まで祝されて来ましたが、出席人数が増えています。

献金について。席上献金は合計で、八八一、一八二円与えられ、この働きの為の予約献金は、二、一四八、四〇〇円与えられました。目標額は満たされ、この働きの前進の為に力強い信仰の証しが与えられました。

この第五回の聖化大会を機会に、主講師の説教集をはじめ三冊の本が出版されました。

①説教集「至聖所へ」、T・ウイリアムズ博士著、EPA刊、定価五〇〇円。

②「私たちの地域教会と宣教」、T・ウイリアムズ博士著、九〇年東海宣教会議実行委員会刊、定価五〇〇円。

③「ウエスレーの神学」、藤本満博士著、EPA刊、定価六、〇〇〇円。

三冊目の、「ウエスレーの神学」は、インマヌエル高津教会牧師で、聖宣神学院助教授をつとめる著者によつて、まとめられたものであって、今後ウエスレーの神学を学ぶ際の、基本的な手引きとなるような著作です。

日本人の論文としてはじめて採択されたと言う点でも、EPAとしても画期的な出版になっていきます。これからは日本人の手になるウエスレアン・アルミニアン神学のすぐれた論文の出版に期待するものです。



### 総務リポート

◆ 本年は地区の聖化大会が自主的に歩みだした記念すべき年となります。過ぎる五月には、北海道では、札幌と旭川がそれぞれ大会とセミナーを開催され、本田弘慈師が御用をされました。六月には、福岡において九州聖化友会が発足し、この秋熊本で聖化大会が開催されます。また七月には宇都宮に栃木聖化友会が発足し、発会式を兼ねた聖会が開かれ、小林和夫師の講演がなされ、総務として祝辞を述べさせていただきました。この十一月二日には、仙台において、宮城聖化友会の聖化大会が開催されます。

◆ 各地区が充実していくことを喜びつつ、関東と関西のそれぞれに聖化友会が発足し活動するよう期待されています。それに伴い、日本聖化友会が全国協議会としての役割を担い、各地区の聖化友会の交流を励まし助ける組織となることが望まれており、その準備が進められています。

◆ ウイリアムズ博士を迎え、十月二十二日二十三日は東京で、二十五日は名古屋で、聖化大会が開かれ、二十六日はJウエスレーに学ぶ会の大会が開かれました。

◆ 各地区が充実していくことを喜びつつ、関東と関西のそれぞれに聖化友会が発足し活動するよう期待されています。それに伴い、日本聖化友会が全国協議会としての役割を担い、各地区の聖化友会の交流を励まし助ける組織となることが望まれており、その準備が進められています。